

# モニタリング結果報告書 (令和4年度)

## 1. 施設概要

施設名	神奈川県総合リハビリテーションセンター		
所在地	厚木市七沢516		
サイトURL	http://www.kanagawa-rehab.or.jp		
根拠条例	神奈川県総合リハビリテーションセンター条例		
設置目的(設置時期)	心身障害者等の社会復帰を積極的かつ効果的に推進するため、福祉と医療の連携により、入所及び入院している者等に最も適した診断、治療及び機能回復訓練のほか、職業準備訓練、生活支援等を積極的に行うとともに、併せてこれらに関する研究を行い、総合的かつ一貫したリハビリテーションを実施するため(昭和48年4月)		
指定管理者名	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団		
指定期間	H28.4.1 ~ R8.3.31 (2016年) ~ (2026年)	施設所管課 (事務所)	県立病院課

## 2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応
<p>※新型コロナウイルス感染症や原油価格高騰が3項目評価(利用状況、利用者満足度、収支状況)に与えた影響及び対応状況も含めて「総合的な評価の理由と今後の対応」を記載。</p>
<p>評価については、利用状況はC、利用者の満足度がS、収支状況がAであったことから、3項目評価はB評価とした。</p> <p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の制限緩和等により、利用状況が改善した施設もあったが、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響は依然として大きく、利用状況が目標に達しない施設が多数であった。</p> <p>また、原油・原材料価格の高騰により光熱費が予算額を大幅に超過したことから、厳しい経営を強いられることとなったが、県や市の支援金等を活用したほか、職員一丸となって支出の節減を行ったことで、収支を均衡することが出来た。</p> <p>引き続き、新型コロナウイルス感染症や燃料費の動向に注視しつつ、効果的な運営を行い、利用率の向上と収益の確保に努めていく。</p>
<p>&lt;各項目の詳細説明&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆管理運営等の状況 年度途中で徐々に緩和されたものの、令和3年度から引き続き新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じる必要があったが、適切に管理を行った。 また、原油・原材料価格の高騰により光熱費が予算額を大幅に超過したが、収支が均衡するよう運営した。 なお、「かながわりハビリロボットクリニック」の取組を行うなど、県施策との連携が図られている。</li><li>◆利用状況 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により目標を大きく下回る実績が多数あり、C評価とした。 (S評価が1区分、B評価が3区分、C評価が6区分)。</li><li>◆利用者の満足度 施設により8月~12月のいずれかで実施した。おおむねS評価となっているため、S評価とした。</li><li>◆収支状況 収支比率が100.00%となったため、A評価とした。</li><li>◆苦情・要望等 おおむね利用者に理解を得られるような対応がとられている。</li><li>◆事故・不祥事等 施設利用中の利用者の骨折事故等が数件発生している。</li><li>◆労働環境の確保に係る取組状況 経営会議等において、職員の労働状況を共有するなどした。</li><li>◆その他 神奈川県総合リハビリテーション病院については、専用病床の確保、中和抗体療法の実施やワクチン接種の実施など、神奈川県の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を積極的に行った。</li></ul>

### 3. 3項目評価の結果

3項目評価	利用状況 (項目6参照)	利用者の 満足度 (項目7参照)	収支状況 (項目8参照)	3項目評価とは、3つの項目（利用状況、利用者の満足度、収支状況）の評価結果をもとに行う評価をいう。  S：極めて良好 A：良好 B：一部改善が必要 C：抜本的な改善が必要
	B	C	S	

### 4. 定期・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	なし	
現地調査等 の実施状況	実施頻度	現地調査等の内容
	随時	工事の進捗確認や建物の破損・改修など、建物の現況確認を行ったほか、施設の運営状況について、必要に応じて現地視察を行った。
意見交換等 の実施状況	実施頻度	意見交換等の内容
	随時	電子カルテ等の定例会議に加え、翌年度予算に関する調整や懸案事項に係る打合せなど、毎月複数回の意見交換を行っている。
随時モニタリングにおける 指導・改善勧告等の 有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	指導・改善勧告等の内容

## 5. 管理運営等の状況

[ 指定管理業務 ]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
<p>1 重点方針 (1) 高度専門性の発揮</p>	<p>リハビリテーションセンターの指定管理者として、重度・重複障害者への医療・福祉サービスの提供とリハビリテーションにかかわる研究開発のため、優秀な人材の確保と職員の資質の向上に取り組んでいる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、職員の高度専門性の向上のための研究・研修参加が困難な状況は続いているが、学会や専門資格取得のための研修のオンライン形式での参加を支援するとともに、対面形式でも段階的に研究・研修参加を支援することで高度専門性の維持向上を行ってきた。</p> <p>また、「かながわりハビリロボットクリニック」は、筋電義手をはじめとしたリハビリ医療での治療・訓練効果の評価検証を行っており、令和4年度は「未来筋電義手センター」として先天性の小児患児4人については筋電義手の訓練まで進むことができた。</p> <p>また、後天性の小児患児1名に対しては、患児のニーズが高かったダンス用の義手の製作に取り組み、皆と同じ振り付けができるよう軽い素材の装飾用義手を製作した。これには、軽量化を図るため、市販品ではなく3Dデータで設計し3Dプリンタを利用し製作した。</p> <p>また、3Dスキャナによる断端部の採型手法を研究的に実施し、乳幼児への負担を軽減する取組を行った。</p>	
<p>(2) 収益の確保、効率化</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により利用率の上昇を図ることが難しく、計画に対し、多くの施設で目標を達成することができなかったが、前年度対比では、利用率が増加している施設も増え、回復基調となっている。</p> <p>病院において年間を通じて神奈川モデルの重点医療機関協力病院・発熱診療等医療機関・中和抗体療法外来拠点施設の役割を維持し、新型コロナワクチンの接種医療機関としての取組が収入確保につながった。</p> <p>福祉施設の自立支援ホームでは、重度重複障害者への対応を目指し、令和4年度から肢体不自由部門と視覚障害者部門の一体化運営を実施するなど、収益の確保、効率化のための新たな試みを開始した。</p> <p>また、原油・原材料価格の高騰等により、経営に大きな影響が生じたが、事業団全体として、職員一丸となって節電、節減に取り組んだ。</p> <p>現在も、電気料金や物価の高騰など経営リスクにつながる不安材料もあるが、引き続き利用率の向上や収益の確保、効率化に向けた取組を進めていく。</p>	

<p>(3) 安全管理対策の強化</p>	<p>患者・利用者への感染防止を目的に、年間を通じて面会の制限や外泊、外出等の制限を実施した。結果として、令和4年度は、患者・利用者の協力もあり、病院・福祉施設ともに大規模なクラスターを発生させることなく安全な患者・利用者生活を維持することができた。</p> <p>なお、病院では、地震災害を想定した防災訓練と火災時を想定した防災訓練を2回実施した。福祉施設では、外部からの侵入者を想定した地元警察による防犯研修を実施するなど、患者や利用者の安全確保に向けた訓練・研修を実施した。</p>	
<p>(4) 内部管理体制の強化</p>	<p>事業団経営会議や安全衛生委員会において、職員の年休取得状況や時間外労働時間の状況を共有するとともに、各所属の勤務実態が労務関連の法改正に対応できているかを確認した。</p> <p>その他に、法律上の助言や契約締結及びその履行等に関する助言を受けることができるよう、法律顧問契約を締結し、コンプライアンスの強化を目的とした体制整備を行った。</p> <p>今後も、社会福祉法人に求められる経営組織のガバナンスの強化及び事業運営の透明性の向上等に努めていく。</p>	

<p>2 事業計画</p> <p>(1) 病院機能の充実</p> <p>(ア) リハビリテーション機能の充実</p>	<p>高度なリハビリ訓練の提供を行い患者の社会復帰を実現する施設として80%を越えた在宅復帰率を維持している。また専門性を維持し、質の高いリハビリ訓練を実施するため認定療法士資格取得の推進を行っている。</p> <p>入院患者数は、延べ81,254人（実入院患者数1,217人）で、一日平均の入院患者数は222.6人（一日平均入院率79.5%）。退院患者数は、1,216人で、家庭復帰が1,069人（87.9%）と最も多く、次いで施設入所75人（6.1%）、転院70人（5.8%）となっており、死亡退院は2人であった。</p>	
<p>(イ) 地域との連携強化</p>	<p>地域連携室を中心に、近隣医療機関と連携し患者の受入れを行っている。紹介件数は2,453件であった。</p> <p>入院に関する相談は2,038件であった。そのうち1,600件（78.6%）が入院申込みで、1,503件の入院を承認した。また、入院相談時に専門職である看護師がかかわることにより、紹介元病院から提供される情報を精査することができ、入院後のスムーズな診療につながっている。</p>	
<p>(ウ) 患者の視点に立った病院経営</p>	<p>ビデオ会議システムを使用した事前の入院相談やweb面会の実施を通じて、コロナ禍により生じている患者の心理的負担を軽減するように努めている。</p> <p>また、利用者からの要望や苦情については総合相談室にて対応を行い、患者支援（サポート）会議を通じ回答を紙面・口頭・掲示などにより行っている。</p> <p>患者満足度調査を実施したところ、入院患者満足度3.6点、外来患者満足度3.7点と目標値を達成することができた。</p>	
<p>(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善</p>	<p>新型コロナウイルス感染症による患者数の減少、大学病院からの医師派遣一部困難など利用率の向上に不利な状況が続いた。地域連携室の活動により相談から入院決定までの日数は平均7.5日となっており、患者の迅速な受入れを行うことができた。</p> <p>地域別受入れ患者件数や近隣医療機関からの紹介率など分析を行うためのデータが集まっているため、今後、それらを活用して重点項目を定め、利用率向上を目指していく。</p>	

<p>(オ) 調査、研究・開発事業</p>	<p>医学的、工学的、社会福祉学的領域において調査、研究・開発を行い医療・福祉の向上に向け取組んだ。また、当センターの調査、研究・開発経験を活かし、企業との共同研究、受託研究を実施した。</p> <p><b>【研究・開発】</b>      成果として、協力企業の水回りのプラン集「バリアフリーブック住まいの水まわり編」を監修した。また、「令和4年度障がい者自立支援機器等開発促進事業」において、開発協力者として空中搬送ロボットGOCOOLの開発および製品化を目指している。</p> <p><b>【障害者スポーツへの取組】</b>      障害者スポーツ支援の取組として、神奈川県における障害者スポーツ・競技・レジャー（以下「障害者スポーツ等」）の取組への協力を行った。      令和4年度は、障害者スポーツの体験会を計画し、障害者スポーツをさらに普及するために、体験会を行った。職員にも障害者スポーツの魅力を知ってもらえるよう職員向け体験会と、地域向けの体験会をそれぞれ4回実施した。</p> <p><b>【筋電義手事業】</b>      「未来筋電義手センター」として乳幼児を含め実施している。乳幼児から学童、成人まで、訓練内容を患者個人ごとに工夫するとともに、電極の位置やソケットのフィット感、使用に当たり痛みや不快感が無いよう適切なソケットの製作に取組んだ。</p> <p>筋電義手の処方・訓練については、「未来筋電義手センター」として乳幼児を含め実施している。患者の日常生活や職場、学校や幼稚園、保育園での課題やニーズに合わせ必要な操作ができるよう訓練内容を患者個人ごとに工夫するとともに、電極の位置やソケットのフィット感、使用に当たり痛みや不快感が無いよう適切なソケットの製作に取組んだ。</p> <p>特に乳幼児の患者については、義手に慣れる必要から比較的軽い装飾用義手を付けることから始めるが、先天性の小児患児4人については筋電義手の訓練まで進むことができた。</p> <p>本年度より、当事者とその家族を集めた家族会を開催した。「MIRAI ラボ」と称し、先輩当事者の話や同じ手を持つ子どもたち同士が一緒に遊べるプログラムを提供し、ピアサポートを促すとともに当事者の交流の場、情報交換の場を設けた。</p> <p>公費の認定は、障害者総合支援法による認定1名、労災保険による認定1名であった。なお、労災患者には多指駆動のミケランジェロが認定された。</p> <p>筋電義手バンクの仕組みが設けられ、直接寄付の他、ふるさと納税による寄付により必要な筋電義手の費用をまかなう仕組みが導入された。</p>	
-----------------------	---	--

<p>(2) 福祉機能の充実</p> <p>ア 七沢学園</p> <p>(ア) 施設機能の充実</p>	<p>福祉型障害児入所施設では、虐待やその傾向にあるケースと自閉症など広汎性発達障害やADHD（注意欠陥多動性障害）等を伴うケースの利用が依然として際立っている。令和4年度の利用者数は、入所が9人、退所が8人、一日平均入所者数は26.0人で、一日平均入所率は86.7%であった。</p> <p>また、虐待等の措置入所のほか、1か月～6か月の施設入所を通して、ADL（日常生活動作）の評価や改善、集団生活での行動観察や評価、家族のレスパイト等の課題を絞り込み「集中療育」を実施しており、令和4年度は利用者実人数は3名であった。</p> <p>障害者支援施設の施設入所支援の利用状況は、入所が7人、退所が5人、一日平均入所者数は21.8人で、一日平均入所率は72.5%であった。日中活動支援の生活介護においては、強度行動障害者や医療ケアを必要とする利用者の健康維持を基本に機能や発達レベルに応じ機能維持訓練や軽作業、歩行訓練も行っており、一日平均利用者数は17.3人、一日平均利用率は91.1%であった。自立訓練（生活訓練）においては、利用者各々に合った個別作業を主とした支援を行っており、一日平均利用者数は7.6人、一日平均利用率は45.0%であった。</p>	
<p>(イ) 地域との連携強化</p>	<p>地域福祉支援事業では、電話や来園による相談支援は、児童が延べ372人、成人が延べ210人であった。</p> <p>また、児童施設・成人施設ともに実施している短期入所事業は児童が延べ18人、成人が延べ172人を受け入れ、その他に、児童施設は、児童福祉法第33条に基づく緊急一時保護による入所の受け入れは実人数46人、延べ人数305人であった。</p> <p>なお、地域の知的障害者やグループホーム等へ地域移行した退所者及び短期入所のうち生活介護の受給者証を所持する者を対象として日中活動支援（通所訓練）を提供し、実人数6人、延べ人数468人を受け入れた。</p>	
<p>(ウ) 利用者の視点に立った施設運営</p>	<p>第三者からなる苦情解決委員により、知的障害児者は月2回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。満足度調査の結果は目標値を達成している。</p>	

<p>(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善</p>	<p>七沢学園児童の家庭復帰率は、退所者8名のうち3名が家庭復帰をすることができた。  強度行動障害児受入者数は延べ365人で、集中療育の利用者実人数は3人であった。</p> <p>七沢学園成人については、生活訓練事業において地域移行を着実に支援することができ、家庭復帰率の目標を達成することができた。強度行動障害者受入者数は延べ2,190人で、医療重度受入者数は延べ1,825人であった。</p>	
<p>イ 七沢療育園</p> <p>(ア) 施設機能の充実</p>	<p>重度の知的障害と肢体不自由を併せ持つ重症心身障害児者に治療や健康管理などの医療や看護の提供と療育及び日常生活の支援を行うとともに、在宅生活者に短期入所事業を提供した。</p> <p>主治医である小児科医師が中心となり他診療科医師の協力を得ながら看護師とともに日常的に医療ケアが必要である超・準超重症心身障害児者の受入れを行った。今年度の超・準超重症心身障害児者の受入れ実人数は27人であった。</p>	
<p>(イ) 地域への支援と連携強化</p>	<p>「在宅重症心身障害児(者)療育訪問指導事業」は事業中止となった。</p> <p>また、短期入所事業では、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、利用制限を行ったため、在宅の重症心身障害児者の家族等の疾病や休養目的などで実人数158人、延べ928人に対して短期入所の提供となった。</p>	
<p>(ウ) 利用者の視点に立った施設運営</p>	<p>月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。</p> <p>満足度調査は、令和4年度の目標を達成した。</p>	
<p>(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善</p>	<p>令和4年度の入所事業は158人を受け入れ、158人が退所した。また、一日平均入所者数は38.4人で、一日平均入所率は96.1%で目標に届かなかった。</p>	

<p>ウ 七沢自立支援ホーム</p> <p>(ア) 施設機能の充実</p>	<p>七沢自立支援ホームは、肢体不自由者及び中途視覚障害者の支援施設として一体的に運営している。</p> <p>肢体不自由者については、神奈川県リハビリテーション病院と連携して、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、社会参加、家庭復帰が円滑に行えるように努めた。</p> <p>令和4年度の家庭復帰率は、90.3%となった。</p>	
<p>(イ) 地域との連携強化</p>	<p>地域における障害者や退所後の利用者等に通所訓練を実施し、実人数14人、延べ598人で、職場復帰に向けた支援、家庭復帰後の生活の質の向上及び社会生活に向けた支援等を提供した。更に視覚障害者に対しては訪問訓練を実施し、令和4年度は1件であった。</p> <p>また、短期入所事業では、在宅の肢体不自由者、視覚障害者を中心に家族等の疾病、休養などの理由で短期的に利用する者等で実人数20人、延べ114人の受入れを行った。</p> <p>その他に受託評価事業では、肢体不自由部門は、支援学校（支援学級）在学者の進路指導や施設利用者の生活自立支援に資するため、神奈川県リハビリテーション病院と連携して、医学・心理・職能・社会生活等の評価を行っており、視覚障害部門は県内の盲学校等に在籍する視覚障害児者を対象に神奈川県リハビリテーション病院眼科と連携し、視機能・触察能力・日常生活動作・コミュニケーション能力等の評価を行っている。受託評価の利用者数は実人数17人、延べ85人であった。</p>	
<p>(ウ) 利用者の視点に立った施設運営</p>	<p>利用者や家族からの苦情については、第三者からなる苦情解決委員により、七沢自立支援ホームについては月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。</p>	
<p>(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善</p>	<p>令和4年度の肢体不自由者の施設入所支援の利用者数は、入所が20人、退所が27人、一日平均入所者数24.8人で、一日平均入所率は62.1%であった。また、日中活動支援の自立訓練（機能訓練）は一日平均利用者数が25.0人、一日平均利用率は59.5%であった。</p> <p>一方、中途視覚障害者の施設入所支援の利用者数は、入所が16人、退所が14人、一日平均入所者数9.2人で、一日平均入所率は92.0%であった。</p> <p>また、日中活動支援の自立訓練（機能訓練）は一日平均利用者数が11.2人、一日平均利用率は62.5%であった。</p>	

<p>(3) 地域へのリハビリテーション支援事業</p>	<p>地域における障がい者・高齢者等が適切なリハビリテーションサービスを円滑に受けられるよう、サービス提供事業者等への支援業務を全県的な立場で行った。</p> <p>地域支援室では、指定管理事業であるリハビリテーション専門研修、地域リハビリテーション支援に関連する活動、県委託事業である神奈川県リハビリテーション支援センター事業を行った。</p> <p>県委託事業の神奈川県リハビリテーション支援センター事業に関してはリハビリテーション情報の提供、人材育成、関係機関の連携を推進する業務を行った。</p> <p>また、高次脳機能障害支援室では「高次脳機能障害支援普及事業(国事業)」の神奈川県内の支援拠点機関として支援コーディネーターと心理判定員が配置されており、高次脳機能障害者への相談支援、普及啓発活動、研修事業等を行った。</p> <p>リハビリテーション専門研修は、医療・保健・福祉・介護専門職を対象とした研修で、令和4年度は17コースの研修を全て対面形式で実施した。新型コロナウイルス感染防止のため、受講人数の制限、受講前の体調管理チェック、ワクチン接種、機器備品の消毒を実施しながら対応し、研修終了後10日以内の感染報告はなかった。延べ受講者数は外部受講者339名、事業団職員13名で総受講者延べ数は352名であった。</p> <p>地域リハビリテーション支援関連活動として次の活動を行った。</p> <p>ア 「かながわ地域リハビリテーション支援連絡会」 政令市のリハセンターとの連絡会をオンラインで実施した。(1回)</p> <p>イ 地域医療介護連携会議等への参加</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「神奈川県小児等在宅医療推進会議」(2回)</li> <li>2) 「自立支援協議会」(県、保健福祉圏域、市町村)(15回)</li> </ol> <p>※例年実施している、保健福祉事務所への難病患者支援研修等の協力については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。</p>	
------------------------------	---	--

	<p>神奈川県リハビリテーション支援センター事業（県委託事業）として活動し、リハビリテーションの相談対応件数は188件、その内新規相談件数は107件、訪問件数は26件であった。ホームページへのアクセス総数は45,377件であった。</p> <p>高次脳機能障害支援普及事業として次の活動を行った。</p> <p>ア 相談支援</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 個別支援（170件）</li> <li>2) 巡回相談事業（5か所、延べ41回）</li> </ol> <p>イ 普及・啓発</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研修会の開催（対面1回）</li> <li>2) 神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会（オンライン開催・1回）</li> </ol> <p>ウ 研修関係事業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研修会の開催（対面2回／オンライン開催1回）</li> <li>2) 県内研修会への講師派遣（3回）</li> <li>3) 事例検討会（6回）</li> <li>4) ネットワーク育成事業：高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会（2回）</li> </ol> <p>エ 国との連携：全国高次脳機能障害相談支援コーディネーター会議（2回）</p> <p>オ その他の関連事業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 連携構築 <ol style="list-style-type: none"> <li>①政令指定都市との連携（2回）</li> <li>②自立支援協議会との連携(13回)</li> <li>③当事者団体との連携（センター内に協働事業室を設置）</li> </ol> </li> </ol>	
--	---	--

※指定管理業務に与えた新型コロナウイルス感染症の影響等がある場合、対応状況も含めて、「実施状況等」欄に記載。

[ 参考：自主事業 ]

事業計画の主な内容	実施状況等
<p>○ 筋電義手事業等の購入・修理・管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな筋電義手等の購入、貸出、古くなった筋電義手等の修理、成長や訓練終了に伴って返却された筋電義手等の管理</li> </ul> <p>○ 寄附金の管理・執行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神奈川県がふるさと納税等で集めた寄付金を、他の会計と区分し管理</li> <li>・年度末に残った資金の翌年度への繰越</li> <li>・筋電義手等の購入費や、修理費の執行</li> </ul> <p>※自主事業は筋電義手バンク事業の運営のみ。</p>	<p>「未来筋電義手センター」として乳幼児を含め実施している。乳幼児から学童、成人まで、訓練内容を患者個人ごとに工夫するとともに、電極の位置やソケットのフィット感、使用に当たり痛みや不快感が無いよう適切なソケットの製作に取り組んだ。</p> <p>特に乳幼児の患者については、義手に慣れる必要から比較的軽い装飾用義手を付けることから始めるが、先天性の小児患児4人については筋電義手の訓練まで進むことができた。</p>

※自主事業に与えた新型コロナウイルス感染症の影響等がある場合、対応状況を含めて、「実施状況等」欄に記載。

## 6. 利用状況

### (1) 七沢学園（児童・入所）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	令和4年度
利用者数※	9,586	9,720	9,493
対前年度比		101.4%	97.7%
目標値	10,731	10,731	10,731
目標達成率	89.3%	90.6%	88.5%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画  
令和4年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の利用状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

<b>【新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響と対応状況】</b> (※当該影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)
①新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響 施設内の感染防止を図るために、短期入所事業等は原則中止にするとともに、短期間の契約入所の形態をとる集中療育のPRも控える対応をとった。そのため集中療育の件数が増えなく、利用者数に影響を与えた。
②令和4年度の対応状況 集中療育の受入は、コロナ渦であった令和3年度は4名（延べ170日）で、令和4年度は3名（延べ126日）にとどまった。新型コロナウイルス感染拡大の予防として、短期入所同様に入所の際は、ご家族全員の入所前2週間の発熱等の健康チェック、ワクチン接種の確認を行った。また、入所される利用者には入所当日に抗原検査を実施した。

### (2) 七沢学園（児童・地域支援（短期入所、家族短期、家族一日））

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和4年度
利用者数※	0	0	18
対前年度比		—	—
目標値	720	720	720
目標達成率		—	2.5%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画  
令和4年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の利用状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

<p><b>【新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響と対応状況】</b>          (※当該影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)</p>
<p>①新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響          施設内の感染防止を図るために、短期入所事業等は原則中止とし、次年度に向けた、養護学校高等部3年生の実習目的の方を短期入所により延べ18人受け入れた。利用契約者には中止を知らせる文書を送付し、当園ホームページにも案内を掲載した。短期利用希望の問合せもあったが、状況を説明し御理解をいただいた。</p>
<p>②令和4年度の対応状況          短期入所とは別に、児童福祉法33条による緊急一時保護の相談を受け、年間で緊急性の高い46人の受入れを行った。入所に際しては、ご家族全員の入所前2週間の発熱等の健康チェック、ワクチン接種の確認を行った。また、入所される利用者には入所当日に抗原検査を実施した。今後も施設内の感染対策は継続して行う必要があるため、感染リスクの安全面の確認を取りながら、受入れは行っていく。</p>

(3) 七沢学園 (成人・入所)

評価	<p>《評価の目安》          目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値(定員数等)があれば記載してください。</p>
C	

	前々年度	前年度	令和4年度
利用者数※	10,780	10,575	7,944
対前年度比		98.1%	75.1%
目標値	10,194	10,194	10,194
目標達成率	105.7%	103.7%	77.9%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画  
令和4年度の年度協定書

利用者数の算出方法(対象)： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

<p><b>【新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響と対応状況】</b>          (※当該影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)</p>
<p>①新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響          コロナ対策として生活訓練事業の体験利用の繰り返し実施を控えた事から生活イメージが十分持てなかった、また入所後の外出外泊の制限があることから、利用に繋がらなかった。</p>
<p>②令和4年度の対応状況          見学や体験利用時の抗原検査の実施や体調管理表の提出によりコロナ対策を緩和し、繰り返し体験実習を行なった。また外泊外出についても徐々に緩和した。</p>

(4) 七沢学園 (成人・地域支援 (短期入所))

評価	<<評価の目安>> 目標値を設定し目標達成率で、S : 110%以上 A : 100%以上~110%未満 B : 85%以上~100%未満 C : 85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値 (定員数等) があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和4年度
利用者数※	169	0	172
対前年度比			—
目標値	1,380	1,380	1,380
目標達成率	12.2%	—	12.5%

目標値の設定根拠 : 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画  
令和4年度の年度協定書

利用者数の算出方法 (対象) : 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

<b>【新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響と対応状況】</b> (※当該影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)
①新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響 施設内の感染防止を図るために、短期入所事業等は原則中止としたが、行動障害等により家庭生活が厳しい状況になった方について限定的に受け入れた。利用契約者には中止を知らせる文書を送付し、当園ホームページにも案内を掲載した。短期利用希望の問合せもあったが、状況を説明し御理解をいただいた。
②令和4年度の対応状況 行動障害等により家庭生活が厳しい状況になった方について受け入れた。

(5) 七沢療育園 (入所)

評価	<<評価の目安>> 目標値を設定し目標達成率で、S : 110%以上 A : 100%以上~110%未満 B : 85%以上~100%未満 C : 85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値 (定員数等) があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	令和4年度
利用者数※	12,782	13,078	13,100
対前年度比		102.3%	100.2%
目標値	13,808	13,808	13,808
目標達成率	92.6%	94.7%	94.9%

目標値の設定根拠 : 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画  
令和4年度の年度協定書

利用者数の算出方法 (対象) : 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(6) 七沢療育園（地域支援（短期入所、重心親子教室、療育訪問指導））

評価	<<評価の目安>> 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
S	

	前々年度	前年度	令和4年度
利用者数※	429	595	928
対前年度比		138.7%	156.0%
目標値	700	700	700
目標達成率	61.3%	85.0%	132.6%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画  
令和4年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(7) 七沢自立支援ホーム（入所）

評価	<<評価の目安>> 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和4年度
利用者数※	13,403	11,851	12,423
対前年度比		88.4%	104.8%
目標値	17,173	17,173	17,173
目標達成率	78.0%	69.0%	72.3%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画  
令和4年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

<p><b>【新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響と対応状況】</b>                  (※当該影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)</p> <p>①新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響                  昨年度同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、外出・外泊・面会等の制限を行った。入所前の情報提供でも制限により実際の居室や訓練風景を見られないため、利用につながらない事が多かった。</p> <p>②令和4年度の対応状況                  前年度より利用率は若干持ち直したものの、コロナ前と比べると依然低迷が続いた。病院や介護保険施設との直接的な交流がほとんど行えず、見学や利用相談が難しい中、利用相談をリモートで行うなどの工夫で、利用者確保に努めた。</p>
---

(8) 七沢自立支援ホーム（地域支援（短期入所、通所、受託評価））

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和4年度
利用者数※	68	41	114
対前年度比		60.3%	278.0%
目標値	1,297	1,297	1,297
目標達成率	5.2%	3.2%	8.8%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画  
令和4年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

<b>【新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響と対応状況】</b> (※当該影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)
①新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響 令和3年度は緊急事態宣言により短期入所、受託評価を制限した事により利用率が大幅減となったが、宣言解除後は受託評価受け入れを行ったため、前年度比増となった。
②令和4年度の対応状況 短期入所に関しては通常の受け入れは制限しつつ、社会生活を営む上で緊急性が高いと判断されるケースについては受け入れた。

(9) 神奈川リハビリテーション病院（入院）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	令和4年度
利用者数※	78,208	76,318	81,254
対前年度比		97.6%	106.5%
目標値	91,980	91,980	91,980
目標達成率	85.0%	83.0%	88.3%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画  
令和4年度の年度協定書

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(10) 神奈川リハビリテーション病院 (外来)

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S : 110%以上 A : 100%以上~110%未満 B : 85%以上~100%未満 C : 85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値(定員数等)があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	令和4年度
利用者数※	45,452	48,777	50,605
対前年度比		107.3%	103.7%
目標値	72,600	72,600	72,900
目標達成率	62.6%	67.2%	69.4%

目標値の設定根拠： 指定管理者申請時に策定した事業団経営計画  
令和4年度の年度協定書

利用者数の算出方法(対象)： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

【新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響と対応状況】  
(※当該影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響

神奈川モデルの重点医療機関協力病院・発熱診療等医療機関・中和抗体療法外来拠点施設としてコロナ陽性(疑)患者の対応にあたる中で安定的に患者を受け入れるため、院内クラスターを起こさないことに重点をおいた。患者受け入れ時の検査実施や入院・外来患者の動線分離、陽性となった職員の自宅待機など感染対策を徹底したため積極的な外来患者の受け入れはできず受診控えもある中、患者数は目標値を下回った。

②令和4年度の対応状況

地域連携の強化により対外的な活動を徐々に増やすことで前年度・前々年度と比較し患者の受け入れ数は上昇している。新型コロナウイルスへの対応として一般市民向けの5,600回を超えるワクチン接種を行うなど継続して感染症対応にも尽力し、病院の地域貢献と認知度向上に努めている。さらに令和5年度に向け、地域連携コーディネーターを配置し、当院の現状を地元医師と歯科医師会に説明して、外来患者数の目標達成に向けた取組を開始した。

## 7. 利用者の満足度

### (1) 七沢学園（児童・成人）

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：令和4年9月5日～令和4年9月25日

[ サービス内容の総合的評価 ]

質問内容 安心した生活、プライバシーの保護、相談事への対応、施設の印象等

実施した調査の配布方法 聞き取り 回収数/配布数 29 / 30 = 96.7%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	17	6	3	3	29	(満足) 相談課職員の手続き支援が助かっている。 (不満) もっと外出を多くしてほしい。壁が薄い。
回答率	58.6%	20.7%	10.3%	10.3%		
前年度の回答数	23	8	4	3	38	
前年度回答率	60.5%	21.1%	10.5%	7.9%		
回答率の対前年度比	96.9%	98.3%	98.3%	131.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(2) 七沢療育園

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：令和4年10月1日～令和4年10月21日

[ サービス内容の総合的評価 ]

質問内容 施設のルール、行事・活動・食事、職員の対応状況 等

実施した調査の配布方法 郵送 回収数/配布数 27 / 39 = 69.2%

配布(サンプル)対象 長期利用者の家族（保護者等）

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	22	5	0	0	27	(満足) コロナ禍でこれまで通りの行事、ドライブと子供達も喜んでいる事だと思います。写真などを見ると行事や、ドライブ外出もやってもらっているのがよくわかります。
回答率	81.5%	18.5%	0.0%	0.0%		
前年度の回答数	26	2	1	0	29	
前年度回答率	89.7%	6.9%	3.4%	0.0%		
回答率の対前年度比	90.9%	268.5%	0.0%	0.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(3) 七沢自立支援ホーム

評価	<<評価の目安>> 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上~90%未満 B:50%以上~70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：令和4年11月28日~令和4年12月2日

[ サービス内容の総合的評価 ]

質問内容 施設のルール、集団生活、行事、施設設備、職員の対応状況 等

実施した調査の配布方法 個別配布、聞き取り 回収数/配布数 32 / 43 = 74.4%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	23	8	1	0	32	(満足) 医療面で良くやっ てもらえて感謝している。
回答率	71.9%	25.0%	3.1%	0.0%		
前年度の 回答数	23	7	3	0	33	
前年度回答率	69.7%	21.2%	9.1%	0.0%		
回答率の 対前年度比	103.1%	117.9%	34.4%	0.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(4) 神奈川リハビリテーション病院 (入院)

評価	<<評価の目安>> 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上~90% 未満 B:50%以上~70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：令和4年9月14日~令和4年9月28日

[ サービス内容の総合的評価 ]

質問内容 病院全般の満足度  
 実施した調査の配布方法 病棟で配布 回収数/配布数 149 / 189 = 78.8%  
 配布(サンプル)対象 入院患者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	108	30	0	2	140	(満足) 「リハビリは抜群です。先生がみんな良い。」 (不満) 「リハビリがないと、とても暇です。レクリエーションなどを充実してください。」 (不満) 「Wi-Fiの利用を早急に進めてほしい。」
回答率	77.1%	21.4%	0.0%	1.4%		
前年度の回答数	77	28	7	1	113	
前年度回答率	68.1%	24.8%	6.2%	0.0%		
回答率の対前年度比	113.2%	86.5%	0.0%	0.0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(5) 神奈川県リハビリテーション病院 (外来)

評価	<<評価の目安>> 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上~90%未満 B:50%以上~70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：令和4年8月16日~令和4年8月29日

[ サービス内容の総合的評価 ]

質問内容 病院全般の満足度、施設職員の対応 等

実施した調査の配布方法 外来窓口で配布 回収数/配布数 541 / 634 = 85.3%

配布(サンプル)対象 -

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	374	87	5	0	466	(満足)「ワクチンの接種に来院した際、対応がよかったので、他の病院から来ました。」 (どちらかといえば不満)「理学療法は技量に差がともある。以前治療していただいた〇〇先生は、治療も怖くなく、日に日に日常に取り戻せて、スペシャリストだと思います。一日も早く外来に戻ってきていただきたいと切に願います。」
回答率	80.3%	18.7%	1.1%	0.0%		
前年度の回答数	447	103	7	0	557	
前年度回答率	80.3%	18.5%	1.3%	0.0%		
回答率の対前年度比	100.0%	101.0%	85.4%	0		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

## 8. 収支状況

評価	<評価の目安> 収支差額の当初予算額：0円の施設が該当 収入合計/支出合計の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
A	

[ 指定管理業務 ]

(単位:千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	2,613,443	4,396,644	39,468	備考のとおり	7,049,555	7,049,555	0	
	決算	2,569,224	4,126,628	212,302	備考のとおり	6,908,154	6,885,834	22,320	100.32%
前年度	当初予算	2,585,476	4,322,268	39,139	備考のとおり	6,946,883	6,946,883	0	
	決算	2,562,892	4,118,597	142,267	備考のとおり	6,823,756	6,823,756	0	100.00%
令和4年度	当初予算	2,575,872	4,373,057	33,115	備考のとおり	6,982,044	6,982,044	0	
	決算	2,591,119	4,363,929	182,018	備考のとおり	7,137,066	7,137,066	0	100.00%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

令和4年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

前々年度/受取利息配当金収入：(当初) 4,543 (決算) 2,366 その他の収入：(当初) 16,488 (決算) 15,495 長期貸付金回収収入：(当初) 3,641 (決算) 13,360 こども園使用料・給食費・補助金収入：(当初) 14,796 (決算) 2,604 コロナ等補助金収入：(当初) 0 (決算) 78,477 経営安定化調整資金取崩収入：(当初) 0 (決算) 100,000

前年度/受取利息配当金収入：(当初) 4,473 (決算) 682 その他の収入：(当初) 16,144 (決算) 17,783 長期貸付金回収収入：(当初) 3,726 (決算) 10,650 こども園使用料・給食費・補助金収入：(当初) 14,796 (決算) 2,743 コロナ等補助金収入：(当初) 0 (決算) 110,409

令和4年度/受取利息配当金収入：(当初) 377 (決算) 401 その他の収入：(当初) 13,448 (決算) 61,987 長期貸付金回収収入：(当初) 4,494 (決算) 16,295 こども園使用料・給食費・補助金収入：(当初) 14,796 (決算) 3,956 コロナ等補助金収入：(当初) 0 (決算) 99,379

9. 苦情・要望等  該当なし

(1) 七沢学園 (児童・成人)

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	0 件		
	相談	0 件		
	要望	0 件		
職員対応	苦情	0 件	悩みが沢山ある。進路が不安。職員に話をしても期待するような回答をしてくれない。	卒園後の生活の場を比較検討できるよう見学・体験を重ねた。
	相談	3 件		
	要望	0 件		
事業内容	苦情	0 件	<p>第三者委員とのやり取りや作業を楽しみに来室される方が多い。ご飯は美味しいし、職員は怖くない。</p> <p>スマホを早く持ちたいのに学習プログラムの後と言われ、学習プログラムのメンバーに早く加えてと伝えても中々入ってもらえない。</p> <p>調理実習を増やして欲しい、予算を増やして欲しい。</p>	<p>不安などを話してることが無いため、第三者委員から生活面や職員対応を質問している。</p> <p>段階的にプログラムを進めていることを説明し、また購入時期の見通しを説明し理解を求めた。</p> <p>週末の余暇調理の事であったので、頻度などを更に増やす場合は自費になることを説明した。</p>
	相談	42 件		
	要望	1 件		
その他	苦情	0 件		
	相談	0 件		
	要望	0 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(2) 七沢療育園

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	0 件		
	相談	0 件		
職員対応	苦情	0 件		
	相談	0 件		
事業内容	苦情	0 件		
	相談	0 件		
その他	苦情	0 件		
	相談	0 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(3) 七沢自立支援ホーム

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	0 件		
	相談	0 件		
	要望	0 件		
職員対応	苦情	0 件	他施設から一人暮らしがしたくて入所したが、訓練が終わったら元の施設に戻ってくるように言われている。どうしたらよいか。	元の施設及び後見人との話し合いを設定した結果、一旦施設に戻り第三者委員にも継続して相談しながら一人暮らしを目指すこととなった。
	相談	4 件		
	要望	4 件		

事業内容	苦情	0 件	車の運転免除を再取得し、仕事に復帰したので、機能訓練だけでなく就労についても支援を行って貰えないか。	ご本人の要望には傾聴しつつ、運転免許の再取得については医療判断が必要である事を伝え、就労については金銭面での情報提供と福祉的就労（就労支援）体験を行った。
	相談	23 件		
	要望	0 件		
その他	苦情	0 件		
	相談	0 件		
	要望	0 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

#### (4) 神奈川リハビリテーション病院

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	9 件	受付フロアの掲示が、待合の椅子の上方にあり、見えにくい。1Fの患者さんご意見箱が狭いところにあり入れにくい。	フロアの配置を変更し、病院からのお知らせや掲示物を見やすくいたしました。
	要望	17 件		
	感謝	0 件		
職員対応	苦情	23 件	授乳室の有無をスタッフにたずねたところ、無いとのことで他の場所の案内までしていただけなかった。	授乳室の設置はありませんが、適当と思われる場所と一緒に探すなど、聞かれた患者さんや家族の側に立ち、丁寧な対応を心がけるよう各部署に伝達しました。
	要望	9 件		
	感謝	4 件		
事業内容	苦情	9 件	セラピストは年齢、経験に個人差があり、それに伴い明らかに技術に差があると思われる。私の場合は担当者が比較的若手で技術も満足したとは思えない。1か月近くのリハビリを考えると、その点は成果に大変差ができて残念に思う。今後、担当はローテーションとなるように考慮していただければと思う。	患者様の回復に差異が生じないように、担当者を中心として複数で治療にあたり、セラピスト間の情報交換に努めております。患者様には、療養の上で、ご不安をおかけしたことをお詫び申し上げます。セラピスト間の経験により患者様に不利益が生じないように、個々人の自己研鑽に励むこと、チーム内の情報共有と教育により一層励んでまいりたいと思います。
	要望	6 件		
	相談	0 件		
その他	要望	0 件		
	その他	3 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

## 10. 事故・不祥事等

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
4月2日	①4月2日に七沢学園で、児童1名に対し抗原検査を実施し、陽性反応が出た。4月4日に同じユニット内から発熱者が出たため、児童3名に対しPCR検査を実施し、4月6日に3名のうち1名が陽性となった。 ②4月3日に保健福祉局クラスター対策班に連絡後、4月7日に施設所管課に文書報告。 ③4月4日に関係機関へ連絡し、4月6日に再度、関係機関を経由して家族に連絡した。 ④無し ⑤無し ⑥無し
4月24日	①4月24日に七沢学園で、足への定時塗布薬支援の際、左足第5指に腫れ・内出血を確認。直近で転倒等の原因は目撃されておらず、本人も痛がる様子はなかった。 ②4月26日に施設所管課に文書報告 ③他利用者との接触を回避するよう、観察を強化するとともに、ドア部分に緩衝材を取り付けた。 ④無し ⑤無し ⑥無し
7月8日	①7月8日に七沢学園で、児童1名が抗原検査を実施したところ陽性反応が出た。その後利用者及び職員は抗原検査を実施し、7月13日までに利用者7名及び職員3名が新型コロナウイルス感染症に感染した。 ②7月8日に保健福祉事務所に連絡し、同日施設所管課に連絡 ③利用者は隔離措置を実施し、感染拡大防止のためのゾーニングを行った。 ④無し ⑤無し ⑥有り（令和4年7月13日記者発表資料）
11月12日	①11月12日に七沢学園で、敷地内で散歩中に児童が突然走り出し、車止めの鎖を飛び越えようとした際に、引っ掛かり転倒した。受診時にレントゲン撮影をしたところ、左鎖骨骨折と診断された。 ②11月17日に施設所管課に文書報告 ③本人の行動特性を把握し、ユニット内で情報共有した。 ④無し ⑤無し ⑥無し
11月30日	①11月30日に七沢自立支援ホームで、利用者がベッドから起き上がり、歩き出したところで、バランスを崩し転倒した。12月1日に理学療法の訓練で動作確認中に、手首付近に腫れがある事がわかり再受診し、右手首骨折と診断された。 ②12月1日に施設所管課に文書報告 ③利用者に単独で移乗を行わないよう説明した。 ④無し ⑤無し ⑥無し

1月10日	<p>① 1月10日に神奈川リハビリテーション病院で、左片麻痺、高次脳機能障害のある患者が、リップクリームを取ろうと、立ち上がりバランスを崩して、床に転倒した。その際、前額部と鼻下を裂傷し、前額部を8針、鼻下を3針縫合した。その後の頭部CTでは、前額部の皮下出血のほかに明らかな所見はなく、意識レベルの低下、バイタルサインの変動も見られず経過した。</p> <p>② 令和4年度第4四半期報告にて令和5年4月19日施設所管課に文書報告</p> <p>③ リハビリテーションが進み、ADL拡大に対して意欲的になっている時期であった。リハビリテーションでのADL状況をチームで共有・把握してタイムリーに転倒予防策を立案していくこととなった。</p> <p>④ 無し</p> <p>⑤ 無し</p> <p>⑥ 無し</p>
-------	--

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事について改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

## 11. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。